

# 見たい問題と就労

「『見たい』問題当事者の就労の実態と意識に関する調査」の  
結果概要の報告

同志社大学文化情報学部

西倉 実季

2012年3月

# 目次

1. 調査の概要.....	1
2. 回答者の属性.....	1
3. 医療と日常生活について.....	3
4. 就労について.....	4
5. 職場での人間関係について.....	6
6. 仕事満足度について.....	8
7. おわりに.....	9

## ごあいさつ

皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私どもは、外見にあらわれる疾患や外傷をお持ちの方々(見た目問題当事者)の就労をめぐる実態を明らかにし、将来的には政策提言につなげていくため、アンケート調査を実施してまいりました。皆様の多大なご協力を賜りまして、この調査を実施することができたことを厚くお礼申し上げます。

この小冊子は、アルビノ、円形脱毛症、乾癬、眼瞼下垂、血管腫・血管奇形、口唇口蓋裂、熱傷など、様々な疾患や外傷をお持ちの方々に対する調査結果をまとめたものです。就労の状況や職場の人間関係、仕事に対する満足度など、調査の結果明らかになったことを簡単にご紹介させていただきます。

今後、これらについては詳細な分析を行っていく所存です。このたびは、「見た目問題と就労」という問題を検討していくうえで貴重なデータを得ることができましたことを感謝いたしますとともに、今後とも私どもの研究にご理解・ご関心を賜りますようお願い申し上げます。

2012年3月

同志社大学文化情報学部

西倉 実季

# 1. 調査の概要

## ■ 調査の方法

今回取りまとめた調査は、2011年1月から4月にかけて、以下の7団体の会員および個人的にご協力をいただいた方々を対象に実施したものである。調査方法は、郵送方式のほか、見た目問題関連のイベントでブースを設けてご協力をお願いする方式でおこなった。調査票は総計623票配布し、284人の方より有効票の返送をいただいた。回収率は45.6%である。

## ■ この冊子で取り上げるデータ

この冊子は、外見にあらわれる疾患や外傷をお持ちの方々（見た目問題当事者）の就労をめぐる実態を明らかにすることを主な目的としているため、分析の対象は、18歳以上65歳未満の253人のデータとした。65歳以上の方々については今回の分析には含めなかったが、ご回答は貴重な資料として活用させていただく所存である。

## ■ 今回の調査にご協力いただいた団体

- アロペシアラボラトリー
  - 円形脱毛症を考える会
  - 大阪アザの会
  - 大阪乾癬患者友の会
  - 眼瞼下垂の会
  - 血管腫・血管奇形の患者会
  - 口友会
- (あいうえお順)

調査票の配布にあたっては、石井更幸さん(アルビノ・ドーナツの会)、石井政之さん(NPO 法人 ユニークフェイス代表)、外川浩子さん(NPO 法人 マイフェイス・マイスタイル代表)、矢吹康夫さん(立教大学大学院社会学研究科/日本アルビニズムネットワーク)にご協力をいただいた。

# 2. 回答者の属性

回答者の疾患・外傷の種類は、円形脱毛症が108人と最も多く、全体の約4割にのぼった(図1)。また、回答者のうち、男性は約25%(65人)、女性は約75%(188人)である(図2)。

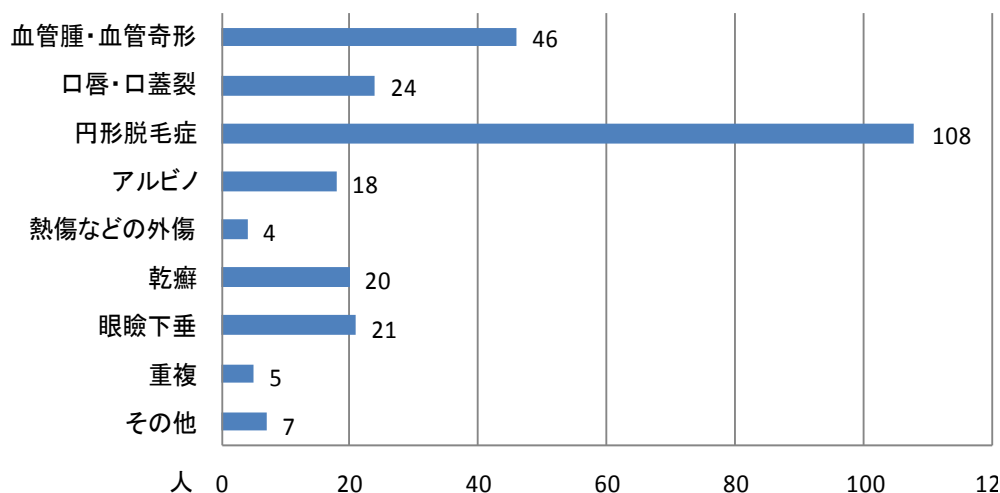


図1 疾患・外傷の種類

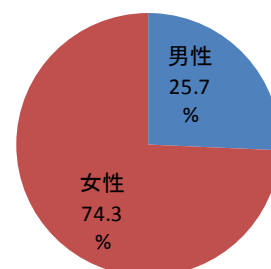


図2 性別

回答者の年齢をみると、30歳代が33.2%と最も多く、次いで40歳代が30.0%である(図3)。回答者の婚姻状況は、約半数が「未婚」、約45%が「配偶者あり」である(図4)。

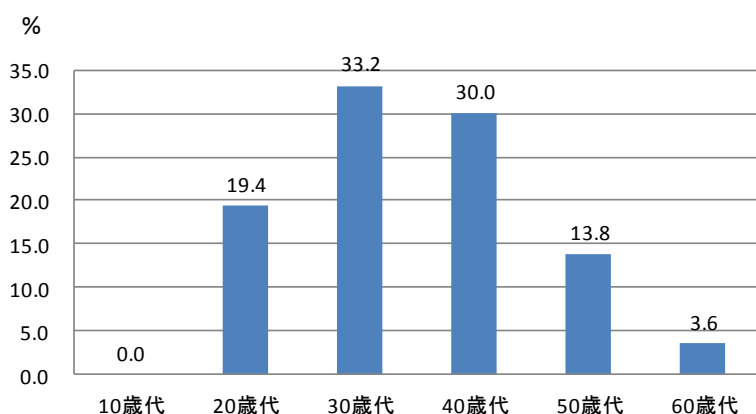


図3 年齢

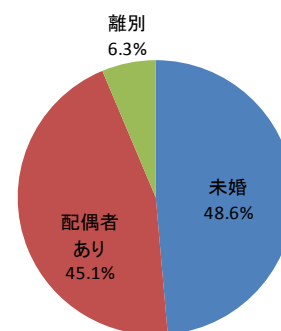


図4 婚姻状況

回答者の現在の居住地は、「関東地方」と「近畿地方」で全体の約65%を占めている(図5)。

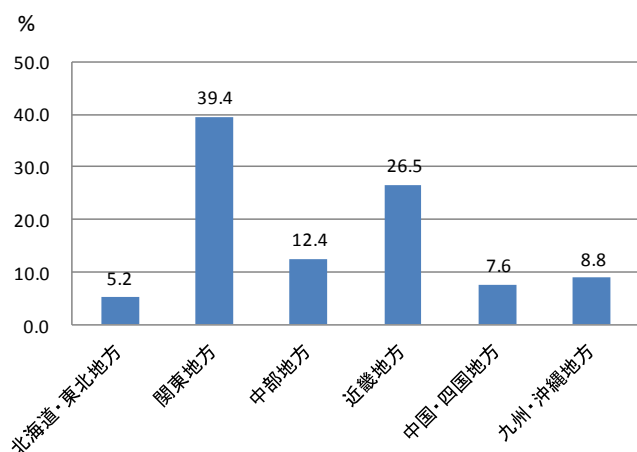


図5 居住地

※都道府県は以下のとおり分類した。

【北海道・東北地方】

北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

【関東地方】

茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

【中部地方】

新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

【近畿地方】

三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

【中国・四国地方】

鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

【九州・沖縄地方】

福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

回答者が最後に卒業した学校は、「大学(短期大学・大学・大学院)」が最も多い(図6)。また、約80%の回答者が、当事者団体や患者会に加入している(図7)。

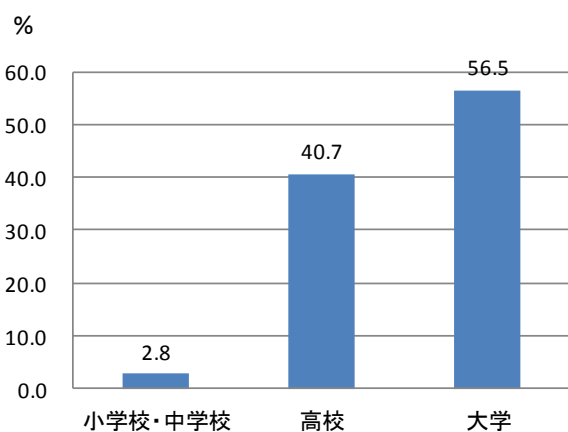


図6 最後に卒業した学校

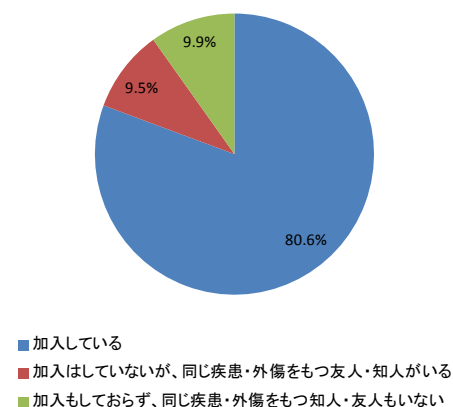


図7 当事者団体・患者会への加入状況

### 3. 医療と日常生活について

回答者のうち、2010年の1年間に、図1の疾患・外傷のことで医療機関を受診した人は43.5%で、受診していない人よりも少ない。

1年間あたりの自己負担額をみると、5万円以上の人々が医療機関を受診した人の約4割を占めている。医療機関を受診した人のうち、1割強(14人)は30万円以上も負担している(図8)。

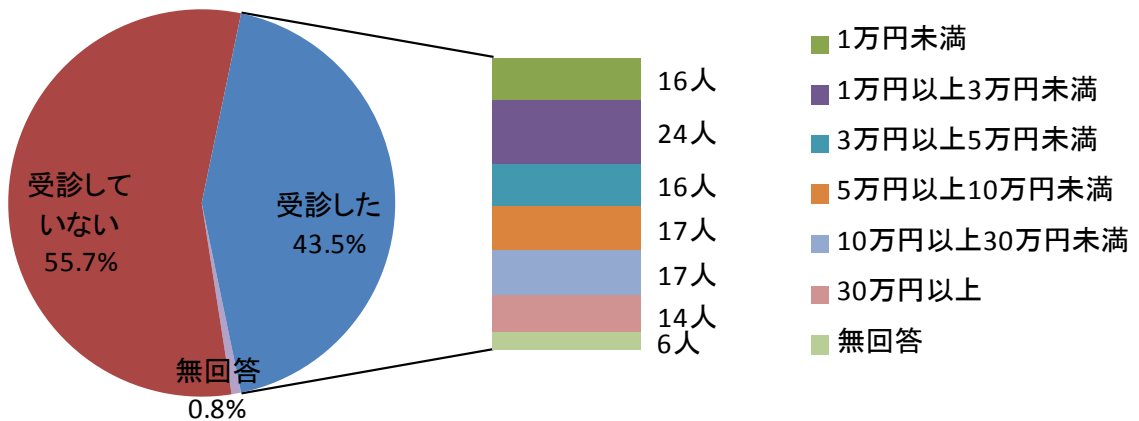


図8 医療機関の受診状況と自己負担額

回答者のうち、普段、図1の疾患・外傷が見た目でわからないようにするための商品(ウィッグ、カムフラージュメイク、ヘアカラーリング剤など)を使用している人としていない人は、およそ半数ずつに分かれた。

これらの商品を購入するために1年間あたり平均してかかる金額をみると、商品を使用している人の半数(64人)は10万円以上、約2割弱(22人)は30万円以上となっている(図9)。

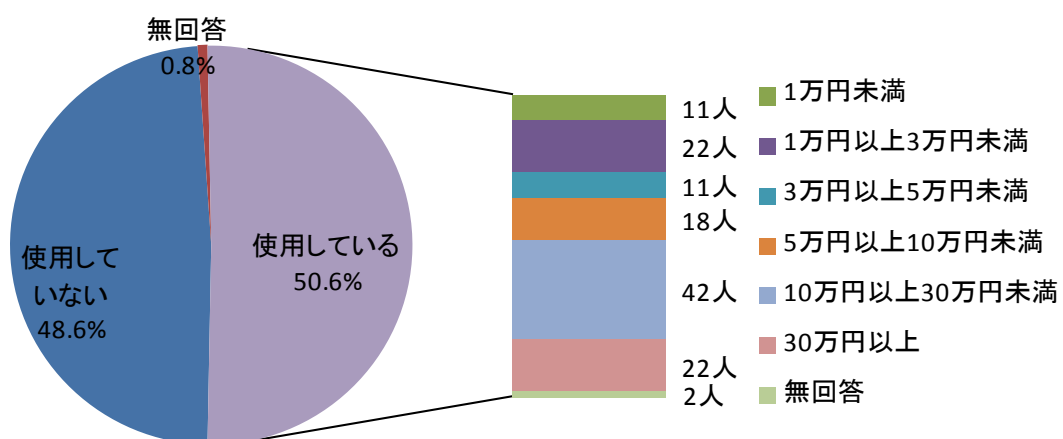


図9 ウィッグ等の商品の使用状況と購入にかかる金額

## 4. 就労について

回答者のうち、仕事をしている人（「仕事をおもにしている」「家事がおもで仕事もしている」「通学がおもで仕事もしている」「家事・通学以外のことがおもで仕事もしている」を選択した人）は約 80%、仕事をしていない人（「家事をしている」「通学している」「その他」を選択した人）は約 20%である（図 10）。

仕事をしている 201 人のうち、もっとも多いのは「正規の職員・従業員」、次に「非正規の職員・従業員」となっている（図 11）。平成 19 年『就業構造基本調査』（総務省が 5 年ごとに実施している調査）によると、仕事を持つ人のうち、正規に雇用されている人は約 50%、非正規雇用者は約 38%、自営業主は約 10%である。今回の回答者の「正規の職員・従業員」および「非正規の職員・従業員」の割合は、この数字とほぼ同じである。

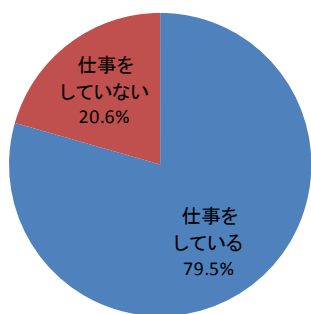


図 10 就労の状況

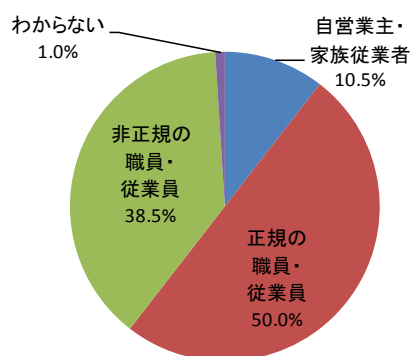


図 11 雇用形態

私がこれまでに実施したインタビュー調査では、たとえばウィッグを被っていることやカムフラージュメイクをしていることを職場の人に知られる前に転職を繰り返すなど、ひとつの職場で長く働けず、そのため正規雇用就くのが難しいという体験談を聞く機会もあった。しかし、今回の調査では、一般の就労調査と比較して、非正規雇用の割合が高いという結果はみられなかった。

仕事をしている人の職種は、「事務職」が最も多く、次いで「専門的・技術的職業」、「サービス職業」となっている（図 12）。『就業構造基本調査』と比較すると、今回の調査では「専門的・技術的職業」、「事務職」、「サービス職業」の人の割合が高く、逆に「生産工程・労務」（『就業構造基本調査』に統一して、本調査の「製造・生産工程」と「建設・労務」を合わせて「生産工程・労務」とした）の人の割合が低いことがわかる（図 13）。

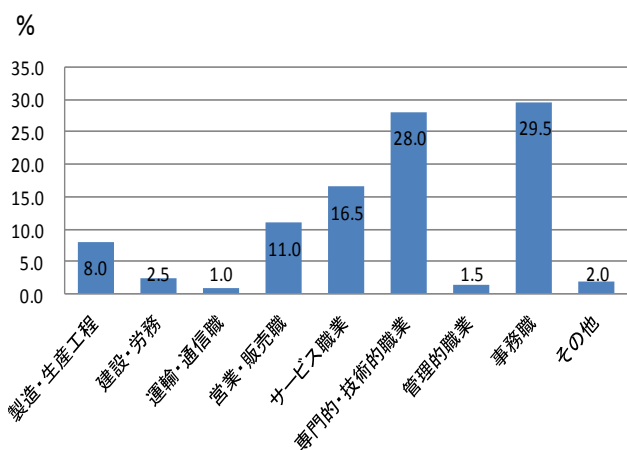


図 12 職種

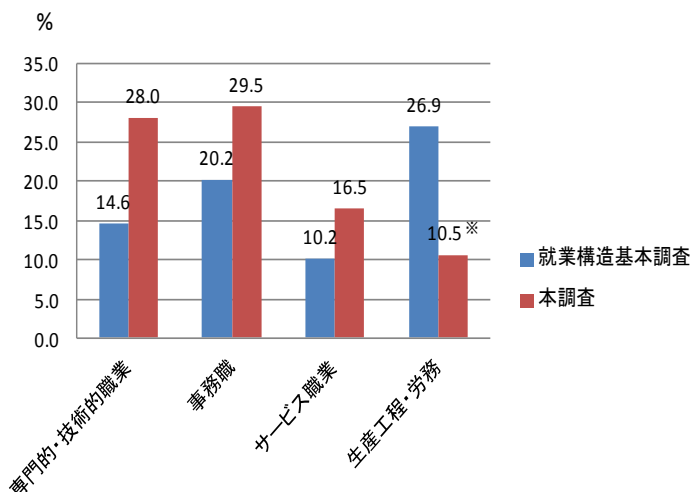
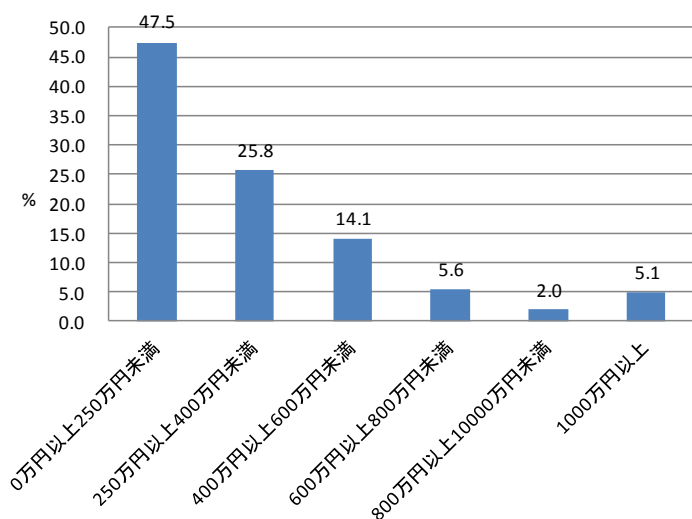


図 13 職種の比較（就業構造基本調査と本調査）  
※「製造・生産工程」と「建設・労務」を合わせたもの

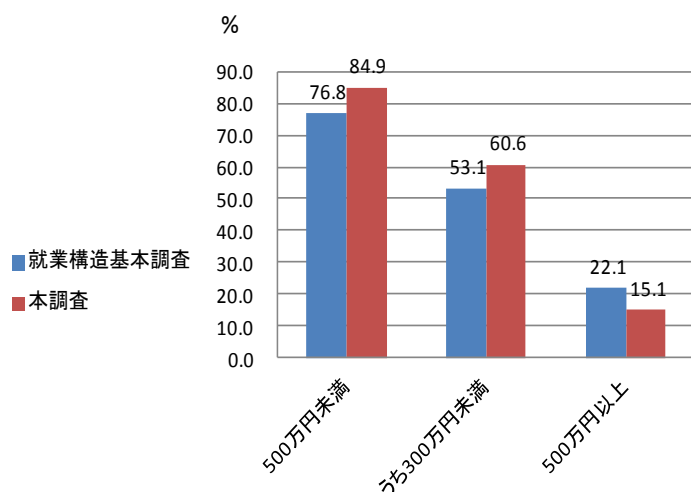
私がこれまでに実施したインタビュー調査では、見た目によって就職で不利な扱いを受けないように、職業資格を取得したという体験談を聞く機会が何度かあった。見た目問題当事者の、職業生活におけるそうした「戦略」とも呼べるような考え方が、専門的・技術的職業に就いている人の多さに表れているのかもしれない。また、サービス職業が多く、生産工程・労務が少ないのは、本調査の回答者の約75%が女性であり、サンプルに偏りがあることも関係していると考えられる。

英米の研究には、見た目問題当事者は人目につきにくい職業を選ぶ傾向があると指摘するものもある。しかし、サービス職業に就いている人の割合は決して低くないうえ、製造・生産工程や建設・労務に従事している人の割合は低いことから、今回の調査ではそうした傾向は確認できなかった。



仕事をしている人の2010年1年間に働いて得た収入は、「250万円未満」が最も多く、仕事をしている人全体の約半数を占めている(図14)。

図14 1年間の収入

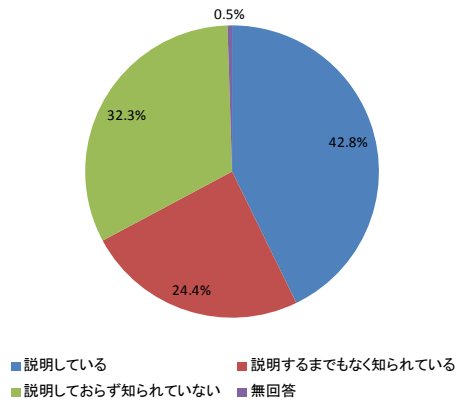


『就業構造基本調査』と比較すると、今回の調査では、「500万円未満」と「(500万円未満のうち300万円未満)」の人が多く、反対に「500万円以上」の人が少ないことがわかる(図15)。

図15 1年間の収入の比較  
(就業構造基本調査と本調査)

4 ページで述べたように、『就業構造基本調査』と本調査では、正規雇用者と非正規雇用者の割合はほぼ等しい。よって、本調査の回答者に「500万円未満」の人が多く、「500万円以上」の人が少ないことに関係しているのは、雇用形態ではなく、性別の偏りであると考えられる。現在の社会では、正規雇用か非正規雇用かにかかわらず、女性より男性の収入が高い。今後、男女別、雇用形態別にデータを分析し、見た目問題が収入に与える影響をより詳細に調べていくことが課題である。

## 5. 職場での人間関係について



仕事をしている人のうち、職場の上司や同僚に疾患や外傷のことを「説明している」人は約 40% である。一方、「説明しておらず知られていない」人は約 30% である(図 16)。

図 16 上司や同僚に疾患・外傷のことを説明しているか

「説明しておらず知られていない」を選択した 65 人に、疾患や外傷のことを説明していない理由を質問したところ、約 70% の人が「仕事に影響がないので説明する必要がなかったから」と回答している。「説明する機会がなかったから」、「説明してもわかってもらえないと思ったから」と答えた人も、それぞれ約 10% となっている(表 1)。

表 1 上司や同僚に説明しない理由

仕事に影響がないので説明する必要がなかったから	67.2
説明する機会がなかったから	9.0
どのように説明すればよいのかわからなかったから	1.5
疾患や外傷のことを知られると不利な扱いを受ける心配があるから	4.5
説明してもわかってもらえないと思ったから	9.0
説明してもメリットはないと思ったから	4.5
その他	4.5
合計	100 (%)

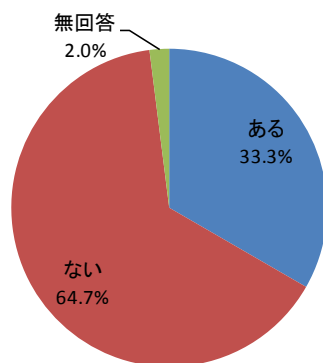


図 17 ハラスメントを受けた経験の有無

この調査では、全 9 項目を設け、仕事をしている人に過去 1 年間に職場でハラスメントを受けた経験の有無と頻度について質問した。「ハラスメント」とは、嫌がらせやいじめのことである。仕事をしている人 201 人のうち、9 項目中ひとつでも「何度もある」または「一、二度ある」と回答した人は、約 35% (67 人) であった(図 17)。

今回の調査では、判断が恣意的になってしまうため、これらのハラスメントが回答者の疾患や外傷に由来するものがどうかは問わなかった。しかし、仕事をしている人のおよそ 3 割が、過去 1 年間に職場でハラスメントを受けた経験があるという結果は、今後、「見た目とハラスメント被害」という問題を検討していく必要性を示している。



項目別にみると、経験した人が最も多いのが「いやなことを言われる」であり、仕事をしている人の25%にのぼる。「何度もある」と答えた人が約10%、「一、二度ある」と答えた人が約15%である。2番目に多いのが、「仕事に必要な教育や訓練が与えられない」でそれぞれ約10%である(図18)。

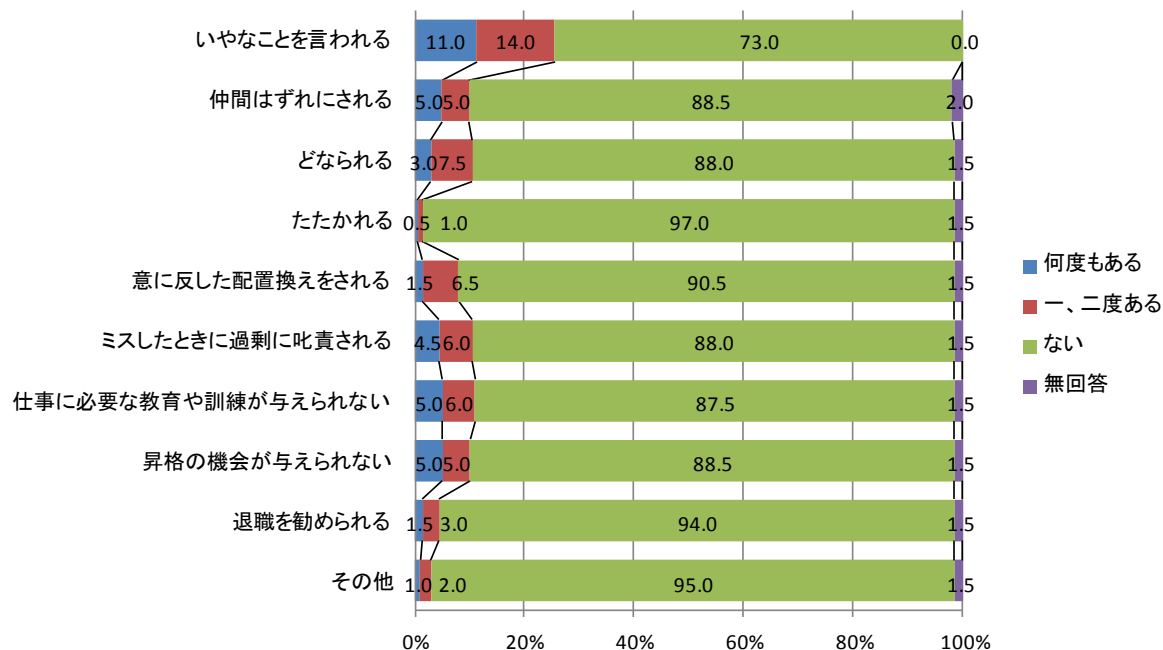


図18 ハラスメントを受けた経験の有無(項目別)

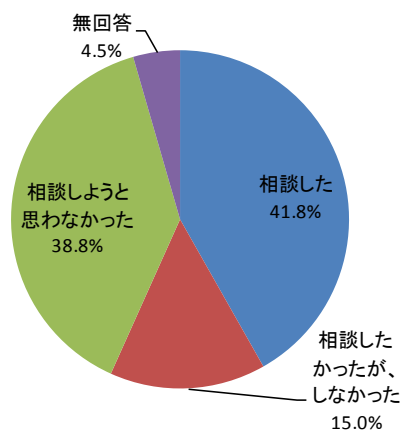


図19 相談の有無

職場でのハラスメントを受けた経験のある人67人に、そのことについて職場で誰かに打ち明けたり相談したかどうかを質問したところ、「相談した」が約40%であった。一方で、「相談しようと思わなかった」も約40%であり、ハラスメントを受けた際の対応は大きく2つに分かれている(図19)。

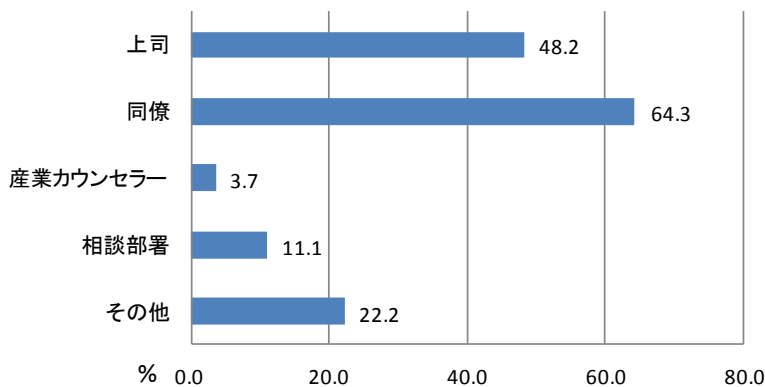


図20 相談相手(複数回答)

ハラスメントを受けたことについて「相談した」と答えた28人に、だれに(どこに)相談したかを質問したところ(複数回答)、「同僚」が最も多く、約65%の人が回答している。次いで、「上司」が約50%となっている(図20)。

「相談したかったが、しなかった」または「相談しようと思わなかった」と回答した 36 人に、相談しなかった理由を質問した(複数回答)。最も多いのが「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると」思ったから」で、相談をしない人のうち約半数は、ハラスメントに耐えることで対処している。2 番目に多いのが「相談してもきちんと対応してくれないと思うから」で、相談をしない人のうち約 45%は、ハラスメントに対して職場が適切に対応してくれることを諦めていることがわかる(図 21)。

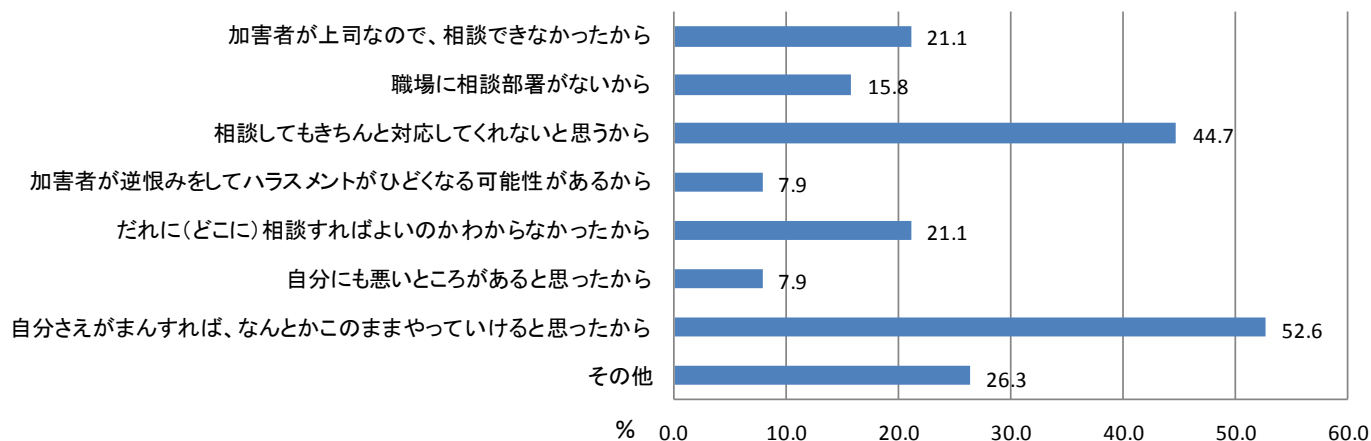


図 21 相談しない理由(複数回答)

## 6. 仕事満足度について

この調査では、全 7 項目を設け、仕事をしている人に現在の仕事についての考え(満足度)を質問した。項目別にみると、「そう思う」と回答した人が最も多いのが「やりがいがある」で約 40%である。「どちらかといえばそう思う」を合わせると、8 割以上の人々が現在の仕事にやりがいを感じていることがわかる。逆に、「そう思わない」と回答した人が最も多いのが「将来設計が立てられる」で約 25%である。「どちらかといえばそう思わない」を合わせると、過半数の人が、現在の仕事では将来設計が立たないと感じている。また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、7 割以上の人々は現在の仕事に全体として満足している(図 22)。

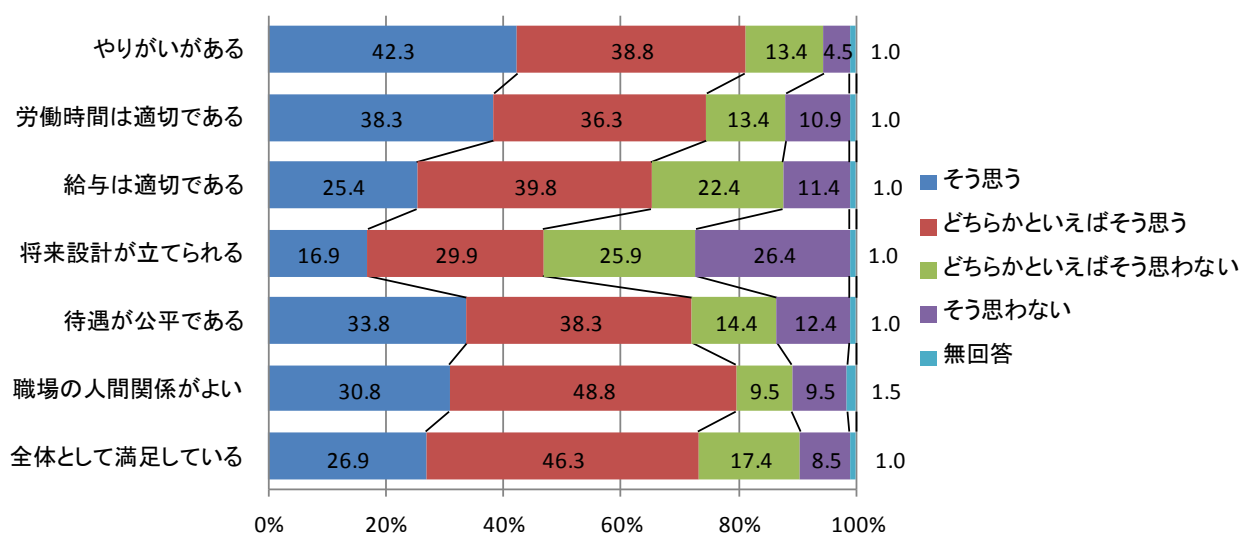


図 22 現在の仕事についての考え

過去1年間に職場でハラスメントを受けた経験の有無と仕事満足度との関係を統計学的に調べたところ、ハラスメントを受けた経験がある人は、ない人よりも、現在の仕事に満足していない割合が高いことがわかった(表2)。職場ハラスメントは、仕事満足度に影響を及ぼすと考えられる。

表2 ハラスメントを受けた経験別にみた仕事満足度

ハラスメントを受けた経験	現在の仕事に全体として満足している				合計
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	
ある	7 (10.6%)	28 (42.4%)	19 (28.8%)	12 (18.2%)	66 (100.0%)
ない	46 (36.2%)	62 (48.8%)	15 (11.8%)	4 (3.1%)	127 (100.0%)
合計	53 (27.5%)	90 (46.6%)	34 (17.6%)	16 (8.3%)	193 (100.0%)

$\chi^2=29.7$   $p<0.0001$

## 7. おわりに

見た目問題当事者の就労をめぐるには、日本国内だけでなく、諸外国でもほとんど研究がなされていない。とくに、アンケート調査によって数値データを収集し、分析した研究は見当たらない。医療費の自己負担額、ウィッグやカムフラージュメイク等の購入費、1年間の収入など、見た目問題当事者をとりまく問題を数字によって具体的に把握できた点は、本調査の意義であると考えている。

今回の回答者のうち、1割以上の人が1年間に10万円以上の医療費を負担し、4分の1の人がウィッグ等の商品の購入に1年間で10万円以上かかっていることがわかった。一方で、1年間の収入をみると、250万円未満の人が、仕事をしている人の半数を占めている。もちろん、これは回答の分布を単純にみた結果に過ぎないが、決して収入は高くないものの、医療費や商品購入の負担額が大きいという問題が指摘できるのではないかと考えられる。この報告結果をもとに、今後さらなる統計的な解析作業を行うことで、これらの問題をより詳細に分析していきたい。

一方、「見た目問題当事者は人目につきにくい職業を選びがち」という通説に反して、サービス職業に就いている人が少なくないこと、専門的・技術的職業に従事している人の割合が高いことが明らかになった。こうした結果については、これから就職を控えている若い当事者の参考や励みになれば幸いである。

みなさま、ご協力ありがとうございました。

※データの入力・整理・分析にあたってご指導・ご協力いただいた同志社大学文化情報学部の大森崇准教授と研究補助員の音泉卓さん、また疫学・生物統計学研究室のゼミ生のみなさんに深く感謝する。なお、本研究は科学研究費補助金(22730383)の助成を受けたものである。

この調査の結果に関するご質問やお問い合わせがございましたら、下記までご連絡ください。

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学文化情報学部 西倉 実季  
E-mail: mnishiku@mail.doshisha.ac.jp

